施工説明書

INAX

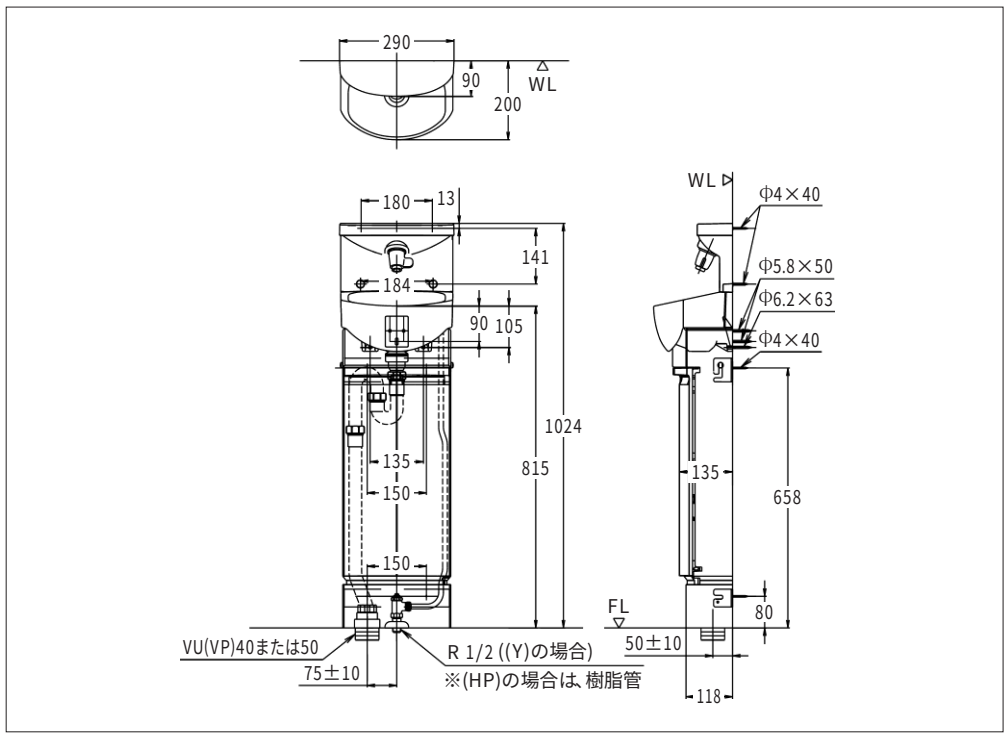
コンパクト手洗キャビネット

GTSF-120(Y), GTSF-120(HP)
TSF-120(Y), TSF-120(HP)
GL-C64CHB(Y), GL-C64CHB(HP)
L-C64CHB(Y), L-C64CHB(HP)

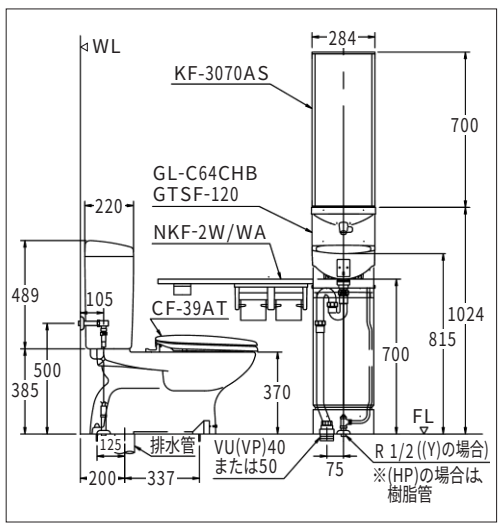
※(Y)仕様と(HP)仕様は、止水栓の違いのみです。(HP)は、樹脂管用ダイレクト止水栓を使います。

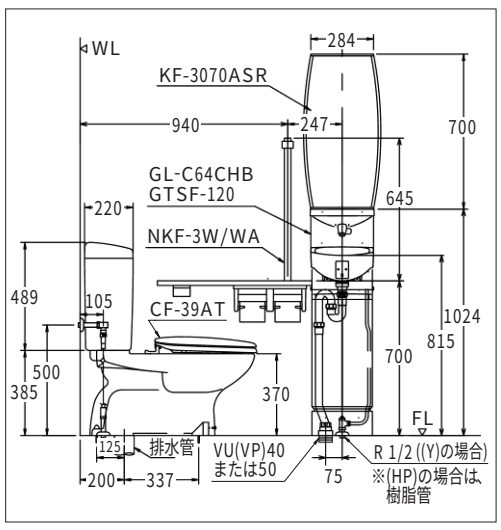
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「ご愛用フォルダー」に入れてお客さまにお渡しください。

●施工完了図

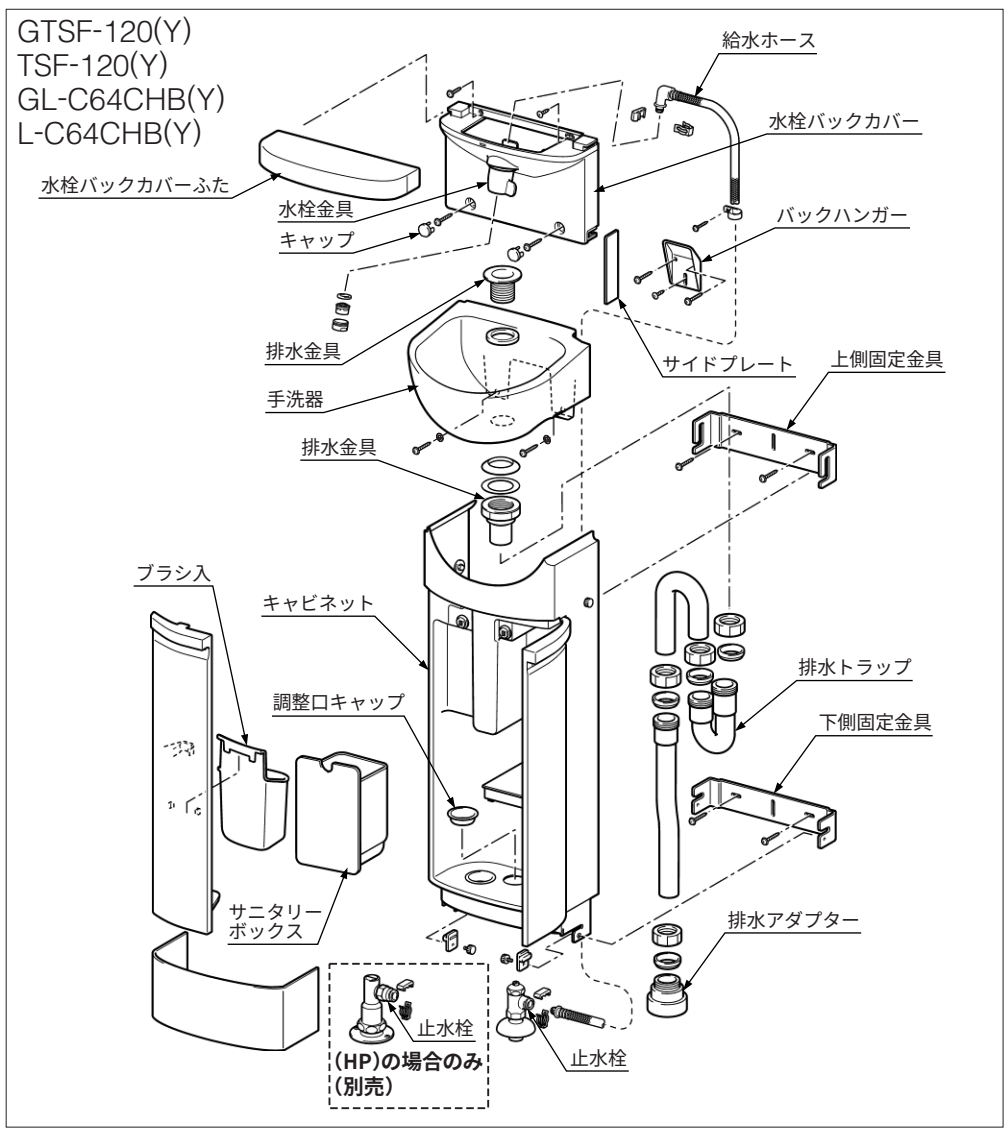


●オプションとのセット例





●各部の名称



●同梱部品

手洗器関連部品

部　品　名	数　量
手洗器	1
手洗器固定用木ねじ	2
止水栓セット（(Y)の場合のみ）	1
排水金具セット	1
排水トラップ	1
排水ホース・ホースクリップ・ねじ	各1
給水ホース・ホースクリップ・ねじ	各1
バックハンガー	1
バックハンガー用木ねじ	3
ワッシャー	3
水栓バックカバーふた	1
水栓バックカバー用キャップ	2
水栓バックカバー固定用ねじ	4

キャビネット関連部品

部　品　名	数量
キャビネット	1
手締ビス	4
固定金具	2
固定ビス	4
調整口キャップ	1
支持パーツ	2

収納部品

部　品　名	数量
サニタリーボックス	1
ブラシ入	1

●安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認するとともに、取扱説明書にそってお客さまに使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまに保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意……「取扱いを誤った場合に使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

……「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

……「分解してはいけません！」

……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

⚠注　意

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。 ※破損しケガする恐れがあります。	禁止
商品が破損したり、ガタついたり、あるいは取付けがゆるんだ状態でのご使用はしないでください。すぐにお取り替えや修理依頼してください。 ※落下の恐れや破損部位でのケガの恐れがあります。	禁止
棚に品物を過剰にのせたり、手をついたりしないでください。 ※破損や落下によるケガの恐れがあります。 （棚の許容積載質量は10㎝×10㎝(100㎠) あたり0.5㎏以下です。）	禁止
商品にもたれたり、たたいたり、強い衝撃を与えたり、固いものをぶつけたり、冷水・熱湯などをかけたりしないでください。 ※破損やケガの恐れがあります。	禁止
火気を近づけたりハンドドライヤー等の熱を直接あてたりしないでください。 ※火災や変色の原因になります。	禁止
この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は、キャビネットの取付けをしないでください。 ※キャビネットの取付強度が保てず落下する恐れがあります。必ず壁の施工のやり直しを行ってください。	禁止
お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	指示
直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。またスポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。 ※変色や変形の恐れがあります。	指示
不陸が3㎜を越える場合はワッシャー等のスペーサーを用意し、フラット面を確保してください。 ※不陸があるまま施工するとキャビネットがひずんだり、割れたりする恐れがあります。	禁止
酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコール等の溶剤や油類を使用して、水栓バックカバーやキャビネット、フタを拭かないでください。またこれらの溶剤や油類を流さないでください。 ※変色や変形の恐れがあります。（溶剤がつきますと跡が残ることがあります。）	禁止
商品施工後に建築側の幅木を取り付ける場合は、給水栓の点検ができるようケコミが外せるように取り付けてください。	指示

株式会社 INAX

●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター　商品相談窓口
ナビダイヤル TEL 0570-017173

受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日 10:00～18:00
（年末年始、夏期休暇は除く）

※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などでご利用になれない場合があります。
TEL 0562-31-0793 をご利用ください。

●施工前の確認

1. 給水の確認

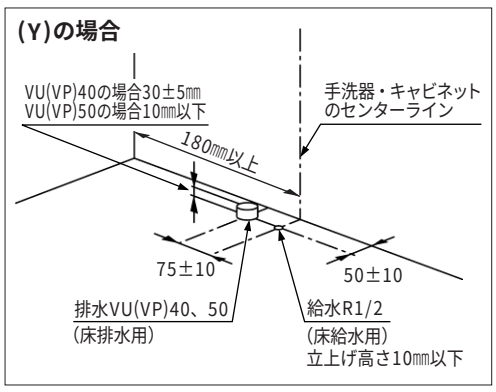
●給水は上水道に接続してください。
※温泉水などの異物を多く含む水には使用できません。
●商品の表面には直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付の際には商品の表面にキズを付けないように十分注意してください。
●必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

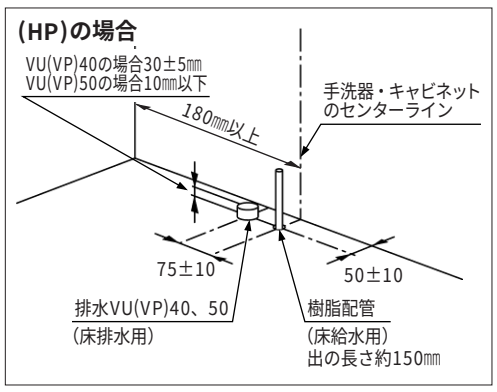
●使用条件

●給水圧力は以下の条件を守ってください。
●給水圧力が0.75MPa{7.6kgf/㎠}を越える場合は、市販減圧弁等で適正圧力(0.20～0.39MPa{2～4kgf/㎠}程度に減圧してください。

2. 配管工事の確認

※給水管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出してあることを確認してください。
※キャビネットは中心が壁から180㎜以上になるようにしてください。キャビネット取付のビスが手締めできなくなります。
※10㎜以上ズレると、排水管の接続ができません。





3. 壁面工事の確認

●落下事故防止のため、取付部材や壁面の構造等について以下の取付条件をお守りください。

〔乾式壁の場合〕

●取付部材として付属の木ねじを使用してください。
●ねじ込み深さが20㎜以上になるように取付木(補強木)を設けてください。
※取付木(補強木)は柱または間柱に固定してください。
●石こうボード等のボード張りには木ねじはききません。必ずあらかじめ壁裏に取付木を入れ、ねじ込み深さを確保してください。
●ボード張りの厚さは12.5㎜以下を想定しています。厚さが12.5㎜を越える場合は、越えた分だけ長い木ねじを別途用意してください。

〔湿式壁の場合〕

●取付部材として別売のAYボルト(AY-34、AY-22、AY-21)を使用してください。
●下材はコンクリートとし、取付部の奥行は70㎜以上(コンクリートの厚さは40㎜以上)を確保してください。
●壁仕上材(モルタル、モルタル＋タイル等)の厚さは20㎜以下としてください。
●ALC材やコンクリートブロックの中空部には取り付けできません。
●木ずり下地、ラスボード下地への取付けは、乾式壁と同じようにあらかじめ壁裏に取付木(補強木)をいれ、必要なねじ込み深さを確保してください。
●屋外や浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しないでください。

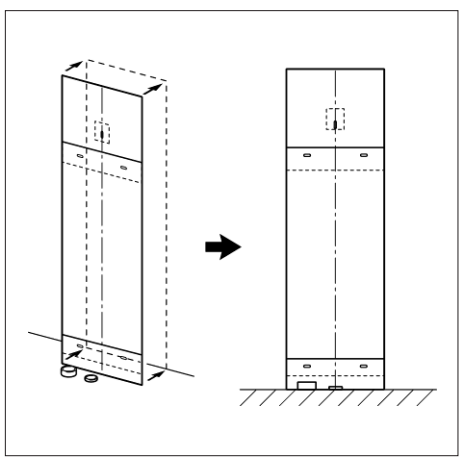
〔壁の不陸について〕

●キャビネット取付壁面の不陸は3㎜以下であることを確認してください。(キャビネットを壁に当て、壁とのすき間が3㎜以下であることを確認してください。

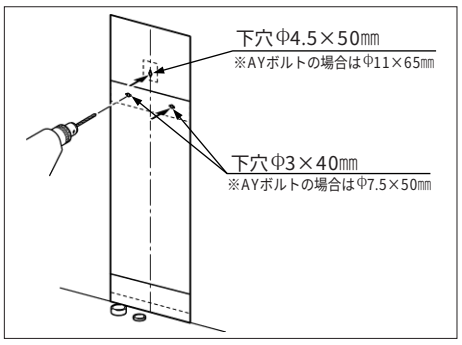
●施工方法

1. 下準備

(1)型紙を取付壁に貼り付けます。
裏面のシートを剥がし、付属の粘着テープで貼り付けてください。
※付属のテープで貼り付けられない場合は、市販の粘着テープでしっかり貼り付けてください。
※型紙の中心線を給水管の芯に、F.L.線を床面に合わせて、しわ・たるみのないように貼ってください。
※型紙は上下貼り間違えないよう注意してください。



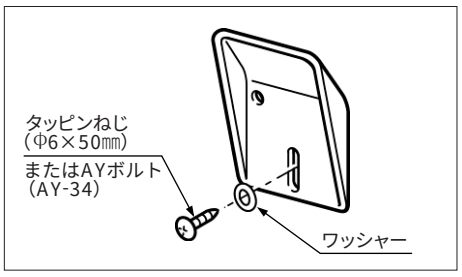
(2)型紙のマークのある位置に下穴をあけます。
※下穴は型紙を貼ったままあけてください。
※下穴寸法は下表を参照してください。それぞれ正しい寸法であけてください。



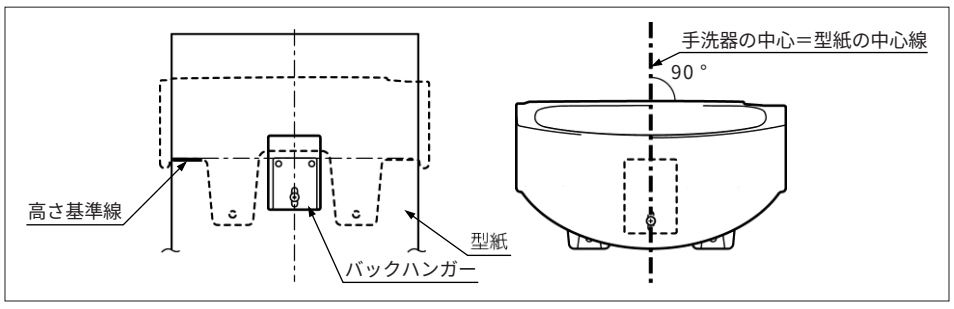
	取付ねじ・ボルトの種類	本数	下穴寸法(径、深さ)	固定部品	備　考
乾式壁の場合	タッピンねじ(Φ5.8×50㎜)	3	Φ4.5×50㎜	バックハンガー	付属品
	タッピンねじ(Φ6.2×63㎜)	2	Φ5×60㎜	手洗器	付属品
	タッピンねじ(Φ4×40㎜)	8	Φ3×40㎜	固定金具、バックカバー	付属品
	タッピンねじ(Φ4×20㎜)	2	Φ3×20㎜	ホースクリップ	付属品
湿式壁の場合	AYボルト(AY-34：M6×65㎜)	5	Φ11×65㎜	バックハンガー、手洗器	別売
	AYボルト(AY-22W：M4×50㎜)	8	Φ7.5×50㎜	固定金具、バックカバー	別売
	AYボルト(AY-21：M4×40㎜)	2	Φ7.5×40㎜	ホースクリップ	別売

2. 手洗器の取付け

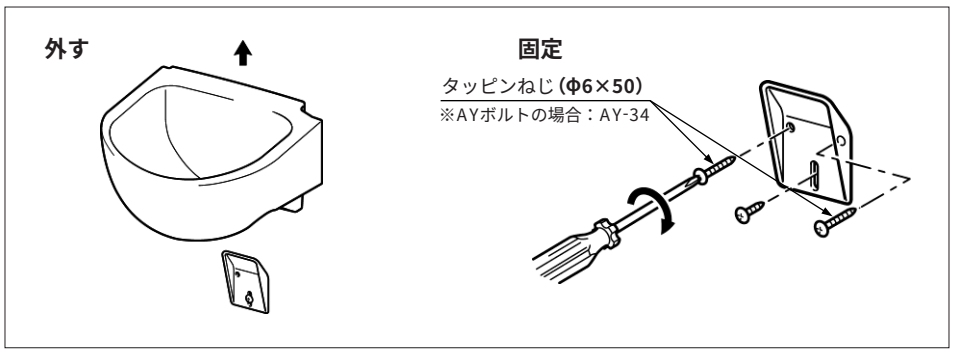
(1)手洗器用バックハンガーを仮固定します。
※長穴の中心のみを仮固定してください。
他の穴は手洗器の水平を調整してから固定します。



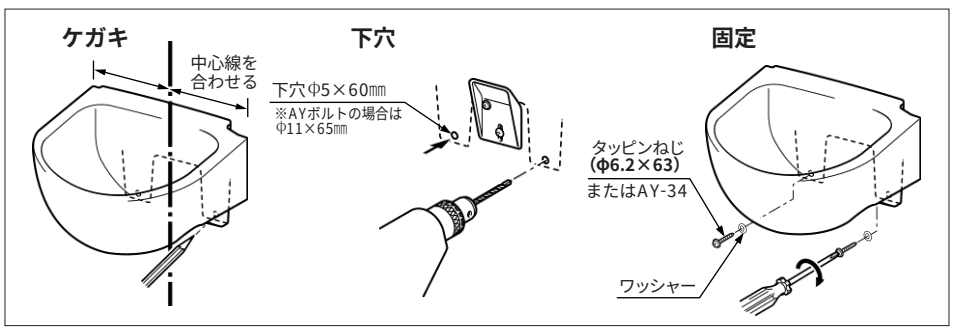
(2)手洗器をバックハンガーにかけ、取付位置を調整します。
①高さは型紙の「高さ基準線」に手洗器の下端部が合うようにします。
②水平は手洗器を正面からながめ、左右のバランスを見て調整します。
※必要な場合は、水平器を使用して確認してください。
③手洗器の中心が型紙の中心線と合うよう調整します。



(3)取付位置を調整し終えたら、一度手洗器を外しバックハンガーの長穴以外の下穴位置をケガき、下穴をあけた後バックハンガーをしっかり固定します。
※バックハンガーはしっかり固定した後ガタがないか確認してください。

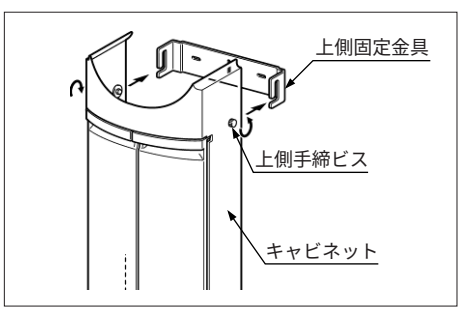


(4)再び手洗器をバックハンガーにかけ、手洗器の中心が型紙の中心線と合っていることを確認し、手洗器の取付穴位置をケガき下穴をあけ、手洗器をしっかり固定します。
※手洗器の取付けの際には柄下の長さが120㎜以上のドライバーを用意してください。
※手洗器はしっかり固定した後ガタがないか確認してください。

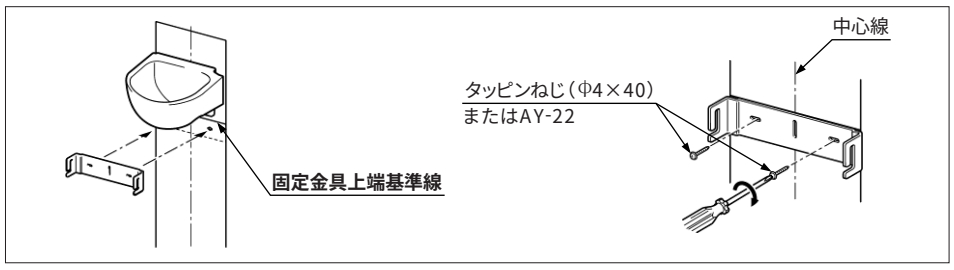


3. 固定金具の取付け

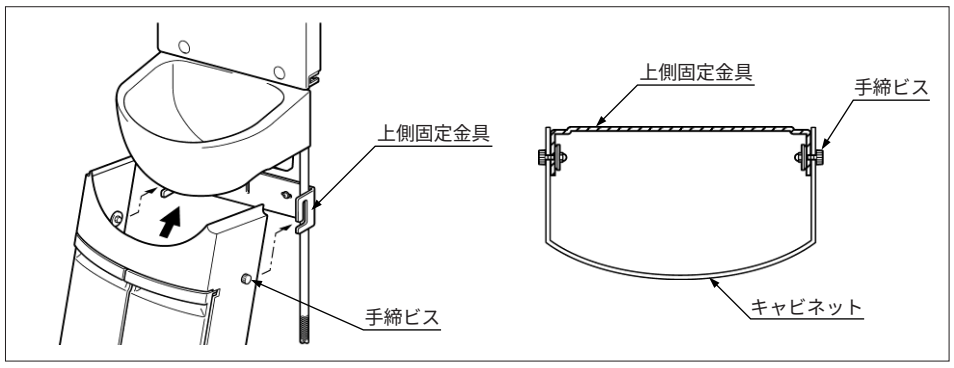
(1)上側手締ビスを約1回転緩め、キャビネットに仮固定されている上側固定金具を外します。



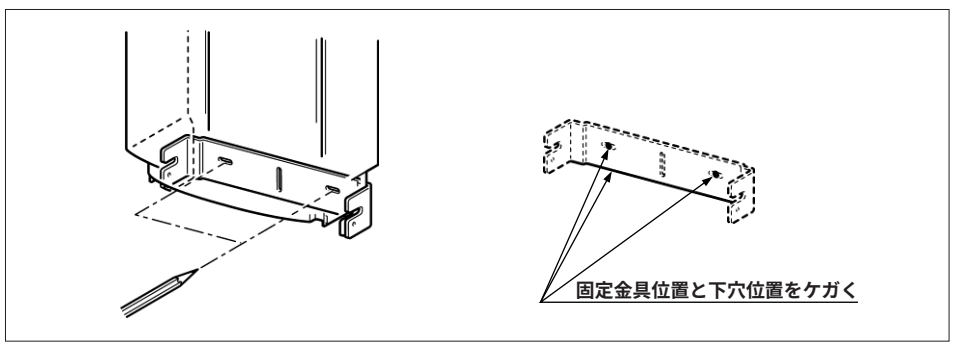
(2)中央長穴の中心と型紙の中心線を、上部端面を「固定金具上端線」にそれぞれ合わせ、上側固定金具をねじ止めし、しっかり固定します。
※金具はしっかり固定した後ガタがないか確認してください。



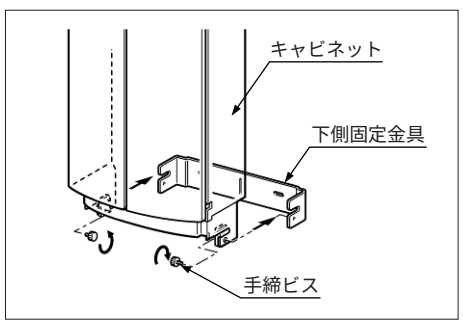
(3)キャビネットの上端を手洗器の下方よりノミ込ませる様にあてがい、両サイドの手締ビスと固定金具の溝を合わせ、手締ビスを溝に差し込みます。



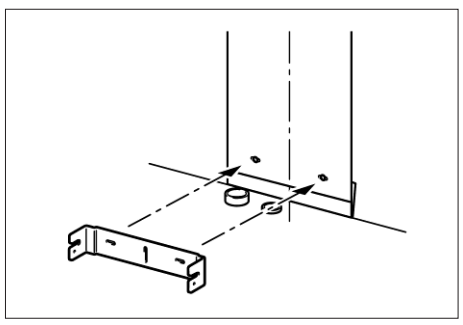
(4)下側固定金具の位置と、取付穴の下穴位置を型紙上にケガきます。



(5)手締ビスを緩め、下側固定金具を外します。

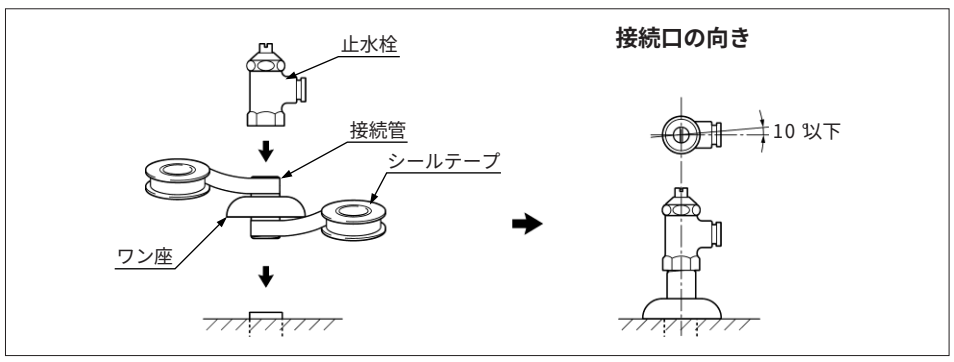


(6)下穴(Φ3×40㎜)をあけ、下側固定金具をねじ止めし、しっかり固定します。



4. 止水栓の取付け

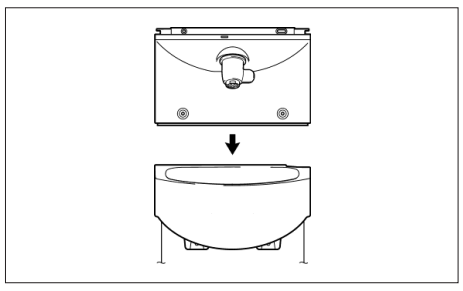
床面に立ち上がっている給水管に止水栓を取り付けます。
※止水栓のフレキホース接続口は向かって右真横か右斜め奥に向けて取り付けます。指示どおり取り付けないとフレキホースを接続できない場合があります。



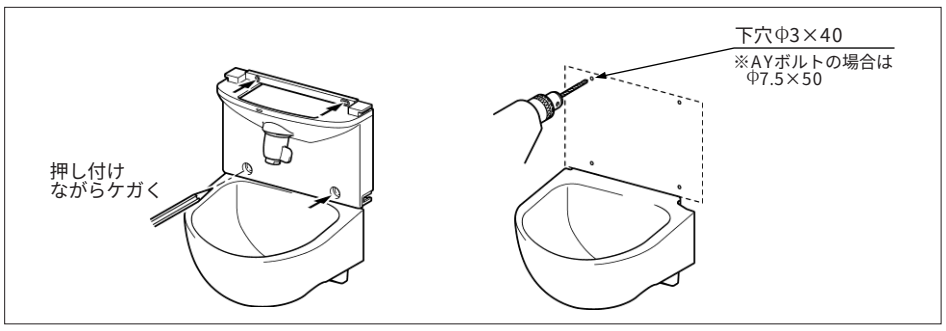
※(HP)ハンドル水栓の場合は、別手配の止水栓(DS-2001EDS-AC)に同梱されている施工説明書の手順に従い、止水栓を所定の位置に取り付けます。

5. 水栓バックカバーの取付け

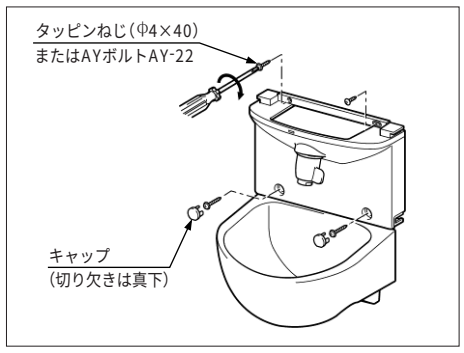
(1)水栓バックカバーを手洗器の上に載せ、しっかりと押し付けながら水栓バックカバーが水平になるように位置を調整します。位置を合わせた後、取付ねじの下穴をケガきます。
※水栓バックカバーを手洗器に押し付けないと、手洗器上面から壁面へ浸水する恐れがあります。



(2)下穴をあけます。

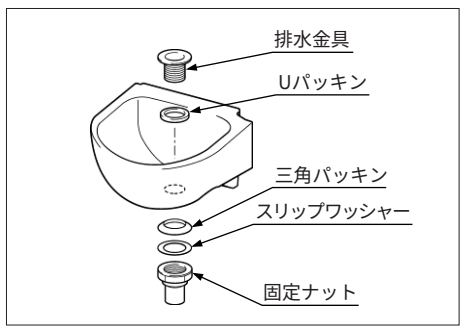


(3)計4本の取付ねじで水栓バックカバーを取り付け、最後にキャップをはめ込みます。
※取り付け後、ガタがないか必ず確認してください。
※キャップには切り欠きがあります。切り欠きの位置が下方に位置するようはめ込んでください。



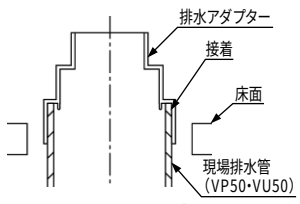
6. 排水金具の接続

(1)手洗器に排水金具を取り付けます。
※固定ナットは手でしっかり締め付けた後、約1/2回転増し締めします。
※パッキンの入れ忘れがないよう注意してください。漏水の原因となります。

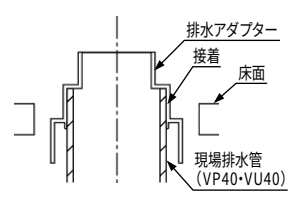


(2)排水アダプターを現場排水管にはめ込んで接着します。
※排水アダプターは、簡単に外れない程度に軽目にはめ込み、接着してください。無理に奥まで押し込むと、破損する恐れがあります。
※現場排水管がVP40・VU40・VP50・VU50の場合に対応できます。現場排水管と排水アダプターの接続は6-(1)図の様になります。
※排水アダプターと現場排水管との間にすき間・ガタがある場合はコーキング材を使用してシール接着してください。
※現場排水管の周囲の汚れ・湿気は十分に取り除いて接着してください。
※現場排水管(VP50・VU50)と床材とのクリアランスが無い場合、床材を3㎜程削ってクリアランスを設けてください。(図6-(2)) また、現場排水管(VP40・VU40)と床材とのクリアランスが無い場合、図6-(2)の様に床面からの現場排水管高さを17㎜とし、排水アダプターをカットして接着してください。

6-(1) 現場排水管と排水アダプターの接続

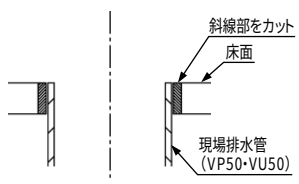


VP50・VU50の場合

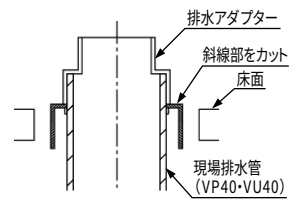


VP40・VU40の場合

6-(2) 現場排水管と床材との隙間がない場合

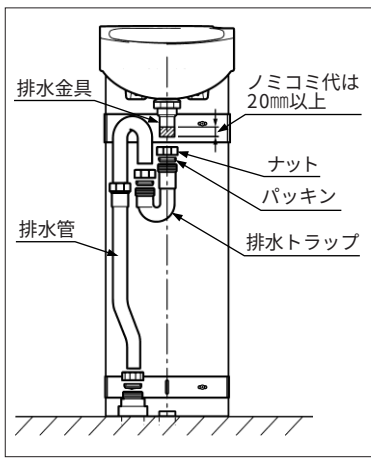


VP50・VU50の場合

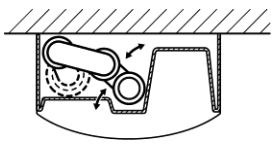


VP40・VU40の場合

(3)排水金具に排水トラップ、排水管を接続します。
※トラップは右図のように排水管が向かって左斜め奥に位置するように取り付けます。
※袋ナットは手でしっかり締め付けます。締め付けが緩いと、漏水やトラップの脱落の恐れがあります。
※パッキンの入れ忘れがないよう注意してください。漏水の原因となります。
※袋ナットとパッキンのはめ合いはきつめになっているので、袋ナットをねじりながらはめ込んでください。
※排水金具のノミコミ代は20㎜以上を確保してください。

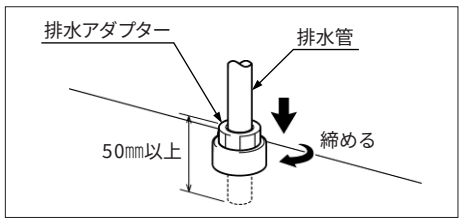


〈排水組立完了図〉



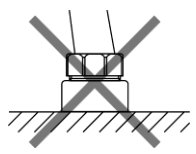
※排水曲げ管、排水トラップ、排水アダプターそれぞれに負荷がかからないよう、各接続部を曲げ、調節してください。

(4)排水管を排水アダプターに差し込んだ後、排水アダプターの袋ナットをしっかり締め込んでください。
※排水管は排水アダプターにしっかりと差し込んでください。



⚠注意

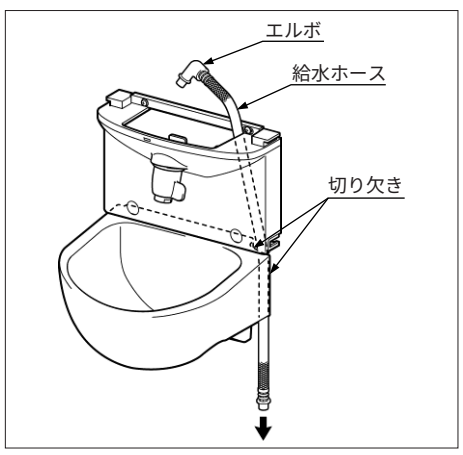
排水管は排水アダプターに真直ぐ差し込んでください。
※排水アダプターに負荷をかけると破損する恐れがあります。



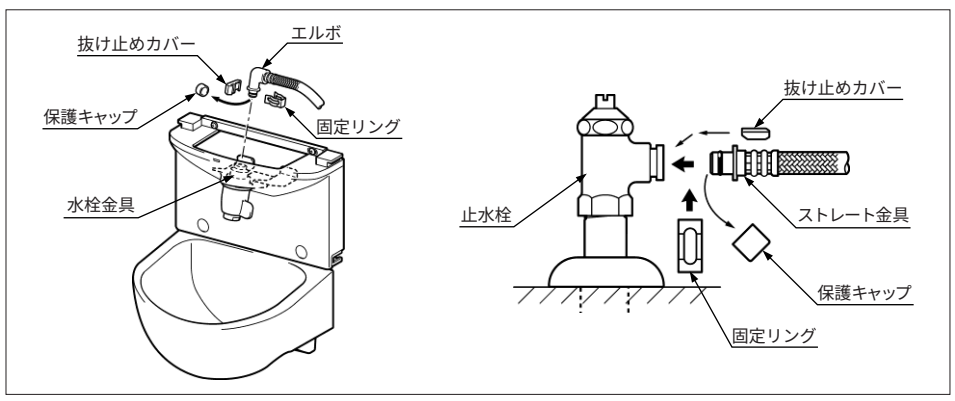
(5)排水管にガタがないことを確認してください。

7. 給水ホースの接続

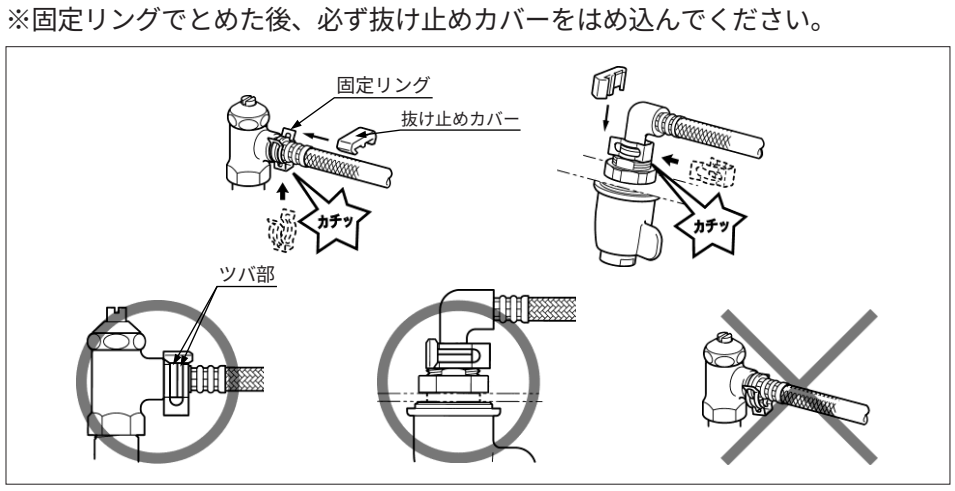
(1)給水ホースは、エルボ側を上にして水栓バックカバーと手洗器それぞれの右側奥にある切り欠き口に通し、床面まで垂らします。
※ホースで水栓バックカバーや手洗器を傷つけないよう注意してください。



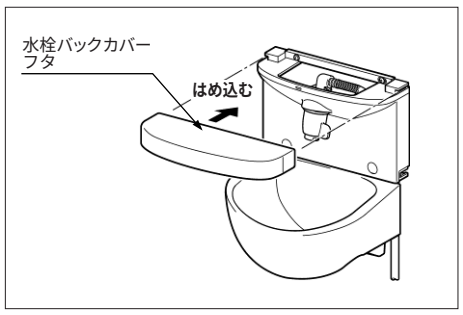
(2)保護キャップを外し、水栓金具に給水ホースを接続します。
①水栓金具に給水ホースのエルボ先端を差し込み、固定リングでとめます。
②止水栓に給水ホースのストレート金具先端を差し込み、固定リングでとめます。



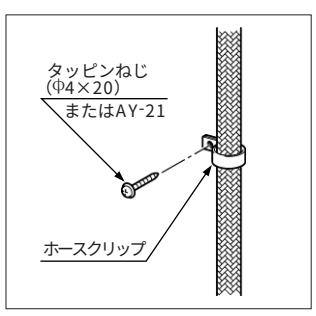
※固定リングはツバ部を挟むようにして確実にはめ込んでください。誤って取り付けると漏水の原因となりますので、接続後給水ホースを軽く引っ張り確実にはまり込んでいるか確認してください。
※固定リングでとめた後、必ず抜け止めカバーをはめ込んでください。

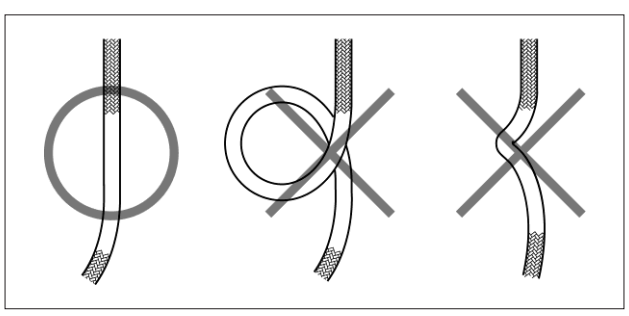


(3)水栓金具のハンドルを開閉して通水検査をします。
※止水栓と水栓金具の接続箇所、排水金具の接続部に水漏れがないか確認してください。
※排水トラップや排水アダプターとの各接続部に水漏れのないことを確認してください。



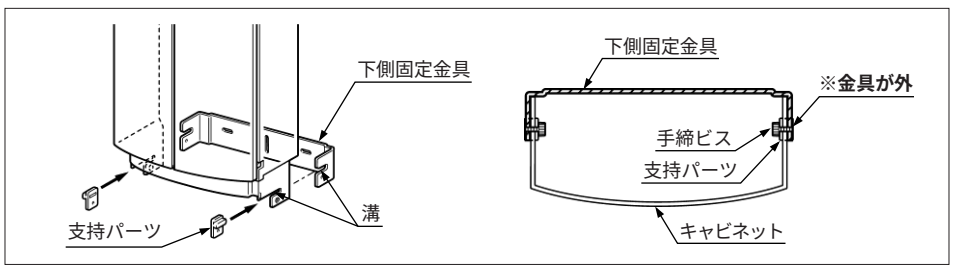
(4)通水検査終了後、水栓バックカバーフタを水栓バックカバーにはめ込みます。
(5)給水ホースにねじれや折れがないかを確認し、固定フックを取付壁に貼り付けます。
※貼付位置は型紙に指示してある位置に従ってください。
※ホースを無理に曲げないでください。ホースが破損し漏水の原因になります。
※固定フックで、給水ホースにキズをつけないよう注意してください。



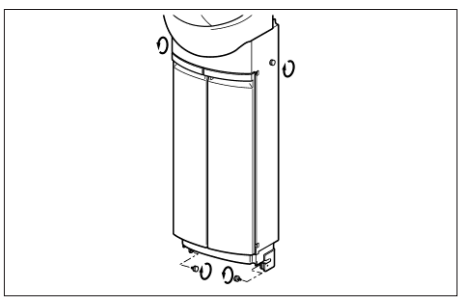


8. キャビネットの取付け

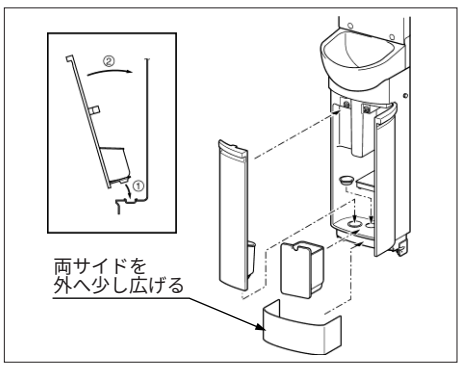
(1)3.(3)と同様の手順で、キャビネットの上端を手洗器の下方よりノミ込ませる様にあてがい、両サイドの手締ビスと固定金具の溝を合わせ、手締めビスを溝に差し込みます。
(2)キャビネット下部両サイドの溝と下側固定金具の溝を合わせ、溝に支持パーツをはめ込みます。
※固定金具とキャビネットは干渉し引っかかりやすいので注意してください。キャビネットの下端を内側に少し押し込みながらはめ込むと上手にはめ込むことができます。
※うまく取り付けられない場合、給排水のホースがずれてキャビネットの裏側面や底面と干渉していないか確認してください。



(3)上下4つの手締ビスを締め付け、キャビネットをしっかり固定します。
※キャビネットにガタがないか必ず確認してください。



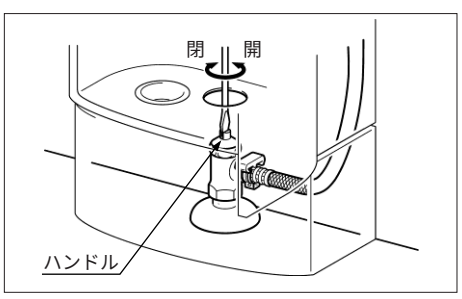
(4)最後に前方よりケコミ、右側面にサイドプレート底部中央に調整口キャップをそれぞれはめ込みサニタリーボックス、ブラシ入を収納し、扉を閉めます。



●施工後の調節

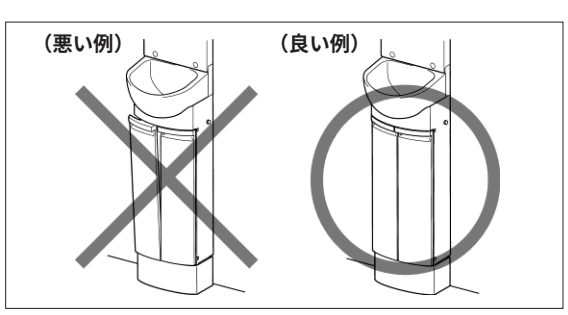
●流量の調節

手洗器を快適にご使用いただくため、止水栓のハンドルを回し、吐出量が4～5リットル/分程度になるよう調節してください。
※水が泡沫状になり始めが吐水量の目安となります。

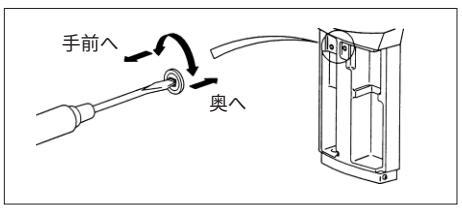


●扉の調節

キャビネット左右の扉の面が合わない場合



①左右の扉の出張りの低い方のマグネット部を右図のように手前に出します。
②扉を閉めて、左右の出張りが同じであるか確認してください。
同じでなければもう一度①を行ってください。



●施工後の確認

●キャビネット本体の確認

(1)キャビネットの取付ねじが十分に締まっているか、ゆるみがないか確認してください。
(2)ねじのゆるみ、キャビネットのガタツキがある場合は、必ずねじ位置をかえて取り付け直してください。

●吐水量、排水量の確認

止水栓の開閉をして流量の調節をします。
※オプションの棚手すり、スリムミラーの施工方法は、それぞれの商品に同梱されている説明書を参照してください。

●商品施工後に建築側の幅木を取り付ける場合は、給水栓の点検ができるようケコミが外せるように取り付けてください。